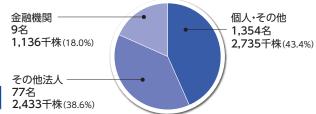
株式情報

(2022年3月31日現在)

株式の状況	
発行可能株式の総数	25,224,000株
発行済株式の総数	6,306,000株
株 主 の 総 数	1,440名

株主メモ 4月1日~翌年3月31日 期末配当金受領株主確定日 3月31日 中間配当金受領株主確定日 9月30日 定時株主総会 毎年6月 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel 0120-232-711 (通話料無料) 電子公告により行います。 ただし、やむを得ない事由により、 電子公告によることができない場合 告の方法 は、日本経済新聞に掲載する方法に より行います。

普通株式所有者別状況



〈ご注意〉

- 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつ きましては、原則、□座を開設されている□座管理機 関(証券会社等)で承ることとなっております。□座を 開設されている証券会社等にお問合せください。 株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いで きませんのでご注意ください。
- 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつ きましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっ ておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱 UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ 信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本 支店でお支いいたします。

より詳細な情報は弊社WEBサイトをご覧ください。

ヤマウホールディングス



https://www.yamau-holdings.co.jp/



₹810-0073 福岡県福岡市中央区舞鶴3丁目2番1号 **YAMAU** TEL: 092-718-2260 FAX: 092-718-2261



使用しています。



FONT ォントを採用しています。



証券コード:5284

YAMAU GROUP REPORT 2022

2021.4.1 • • • 2022.3.31

今日を支え、明日を創る。



ヤマウホールディングス株式会社

株主の皆様へ

『次のステージ』へグループの総力を結集して ~FOR THE NEXT~



代表取締役社長 有田 徹也

株主の皆様には格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。 当社グループでは、2021年4月に「ヤマウホールディングス株 式会社 | を持株会社とする持株会社体制へと移行し、2024年3月 までの「中期経営計画Ⅵ」をスタートさせました。本中期経営計 画の3ヶ年は、当社グループが将来に亘って安定的に成長を続ける ための経営・収益基盤の更なる見直しと徹底的な強化の期間と位 置付け、期間中の様々な取り組みを通じ、目指す将来像の実現へ と邁進して参ります。

「中期経営計画VII 1年目となる第65期は、地質調査・コンサ ルタント業務及び十木丁事事業において好採算の受注が獲得でき たことや、グループ全体で取り組んでいるコスト削減や生産性向 上に加え、工事進行基準の計上方法の見直しなどもあり、親会社 株主に帰属する当期純利益が1.526百万円と過去最高益となりま した。第66期は、エネルギー価格や各種資材価格をはじめとした 急激な物価上昇などを背景に厳しい経営環境となるものと予想さ れますが、引き続き利益の創出に努めて参ります。

また当社では、株主の皆様に対する利益環元を経営の重要政策 として位置付け、安定配当の継続、財務体質の強化と今後の事業 展開のための内部留保を確保することを基本方針としております。

この方針に基づき、当期は業績が好調に推移したことから、普 通配当につきましては1株当たり8円増配し30円とさせていただ き、平素から資本提供を通じて当社を支えて頂いた株主の皆様へ の相応の還元をすべく1株当たり35円の特別配当を実施すること といたしました。これにより当期の1株当たり配当金は、普通配当 30円に特別配当35円を加えた65円となります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援の程、 何卒よろしくお願い申し上げます。

ヤマウグループの概要

ヤマウグループは

グループ事業会社の技術・製品・人材・知力を結集して インフラ整備のトータル・ソリューションを提供して参ります。

ヤマウグループは社会貢献性の高い企業としての更なる研鑽に励み、社員一人一人の人間力を高め、社員と会社が共 に成長することで、お客様に満足を与え、明日の快適な社会環境の創造に貢献して参ります。



ヤマウグループ「中期経営計画VI」(2021年4月~2024年3月) について

■ ヤマウグループが目指す将来像

「国内の社会インフラ施設分野を対象として、「調査・設計」「製 造・施工 | 「維持・補修 | の3領域をグループのコア事業領域とし、 グループの技術・製品・人材・知力を結集し、九州エリアを中心 とした高いプレゼンスとブランドの浸透を確立する。」ことをヤ マウグループが目指す将来像と定めます。

グループ各社の事業領域が重なる部分には、「国土強靭化、災 害復旧、省力・省人化・i-Construction 対応、そして脱炭素・環 境保全|といった、我々ヤマウグループが取り組むべき重要なテ ーマがあります。これら重要テーマはグループ各社の共通の課題・ 日標であり、グループシナジーを発揮するための大事な「舞台| となります。

これらのテーマにグループ各社のリソースを結集し、グループ の総合力を活かした一段上の製品・サービスを展開することが、 社会インフラ施設分野における当社のプレゼンス (存在感) を高 め、グループブランド価値を向上させることにつながると考えて

■ 4つの戦略骨子

環境整備

人材成長加速

収益基盤の強化

向けた連携推進

①グループ各社の個々の力を

最大限に発揮するための

②グループの総合力を活かした

③安定成長を支える強靭な

④グループシナジー発揮に

【社会インフラ施設を対象としたグループの事業領域とグループが取り組む重要テーマ】

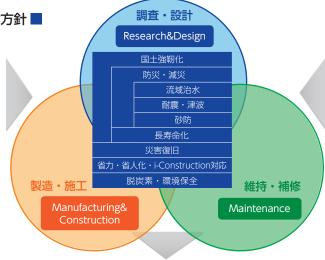
■社会インフラ施設■

(道路・橋梁・農業・河川・海岸・港湾・漁港)

■3ヵ年のグループ基本方針■

『次のステージ』へ グループの総力を 結集して

~FOR THE NEXT~



2023年3月期 定量日標

連結営業利益 18億円

連結営業利益率 9.2%

主要な連結経営指標

売上高

単位:百万円



適用しております。

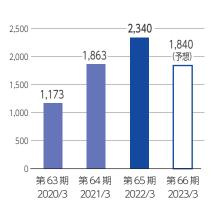
営業利益

単位:百万円



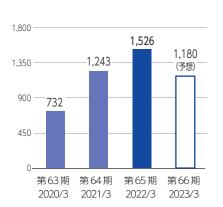
経常利益

単位:百万円



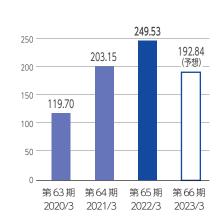
親会社株主に帰属する 当期純利益

単位:百万円



1株当たり当期純利益

単位:円



総資産/純資産

■■ 総資産 ■■ 純資産 単位:百万円 23,133 22,807 25,000 - 21,792 (総資産) (総資産) 20,000 -15,000 -8,223 6,987 10.000 -5,762 (純資産) (純資産) 5,000 -第63期 第64期 第65期 2021/3 2022/3 2020/3

3 YAMAU GROUP REPORT 2022

連結売上高

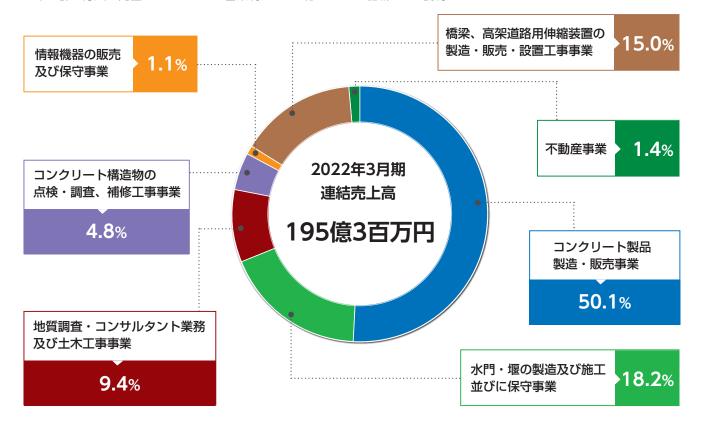
195億円

当期の営業概況

■ 当期の営業概況

当連結会計年度の業績は、新型コロナウイルス感染症の影 響も軽微で計画以上に堅調に推移いたしましたが、収益認識 に関する会計基準の適用の影響により、売上高については 195億3百万円(前年同期267億11百万円)となりました。 利益面では、地質調査・コンサルタント業務及び土木工事事 業において好採算の受注が獲得できたことや、グループ全体 で取り組んでいるコスト削減や生産性向上に加え、工事進行 基準の計上方法の見直しなどもあり、営業利益が22億28

百万円(前年同期比18.9%増)、親会社株主に帰属する当期 純利益が15億26百万円(前年同期比22.8%増)となりました。 尚、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日) 等を当連結会計年度の期首から適用し ております。この結果、当連結会計年度における売上高は、 前連結会計年度と比較して大きく減少しており、経営成績に 関する説明の売上高については、増減額及び前年同期比(%) を記載せずに説明しております。

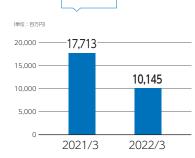


セグメント別営業の状況

※売上高は2022年3月期より新収益認識基準を適用しております。

コンクリート製品製造・販売事業





売上高



コンクリート製品製造・販売事業の売上は、土木製品、景観製品、レジンコンクリート製品の販売によるものであ ります。

当連結会計年度においては、主要市場である九州圏内の建設市場において、中・長期的には公共投資の縮小により 漸減する方向であることに加え、公共投資が耐震、長寿命化、老朽化対策などの既存インフラの維持管理や防災・減 災対策へシフトしていくなか、自然災害に対する復旧・復興工事への対応や、製造原価及び一般管理費の削減に取り 組んで参りました。

その結果、当連結会計年度においては、コンクリート製品製造・販売事業の売上高は、101億45百万円(前年同 期 177 億 13 百万円) となりました。利益面では、河川製品などの大口受注での生産効率の向上が寄与したことな どによりセグメント利益(営業利益)は11億98百万円(前年同期比10.2%増)となりました。

▶ コンクリート製品のご紹介

土木製品

災害復旧、インフラ老朽化対策等の多種多様な 要望に対応できる製品を開発・提案し、国策であ る防災・減災、国土強靭化に貢献して参ります。



ゆうパネル (残存化粧型枠)

景観製品

多彩な表情を持つヤマウの景観製品 は自然環境に広がりと奥行きを与え、 開放感やスケール感を損なうことなく 美しい景観を演出します。

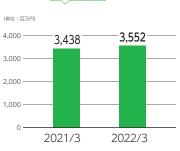
レジンコンクリート製品

耐摩耗性、耐薬品性、耐水性などに 優れ、美観とともに強度や耐久性の両 面が必要とされる環境条件に最適な製 品です。

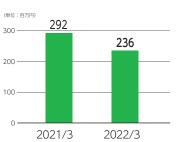
水門・堰の製造及び施工並びに保守事業



売上高



セグメント利益



水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売上は、水門、除塵機、水管橋等鋼構造物の製 造、施工並びにそれらの保守によるものであります。

当連結会計年度においては、水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売上高は、35億 52百万円(前年同期34億38百万円)、セグメント利益(営業利益)は遠隔地工事の外注費 増加などにより2億36百万円(前年同期比19.2%減)となりました。



油圧式起伏ゲート

地質調査・コンサルタント業務及び土木工事事業



前年同期17億35百万円

営業利益 3億24百万円 前年同期比61.6%增

地質調査・コンサルタント業務及び土木 売上高 18億38百万円 工事事業の売上は、地質調査及び地すべり 対策工事並びに測量・設計業務によるもの であります。

> 当連結会計年度においては、地質調査・ コンサルタント業務及び十木丁事事業の売上高は、18億38百万円(前 年同期17億35百万円)となりました。セグメント利益(営業利益)に ついては、自社施工による複数の好採算工事が受注できたことなどによ

り3億24百万円(前年同期比61.6%増)となりました。

コンクリート構造物の点検・調査、補修工事事業



売上高 9億27百万円 前年同期10億16百万円

営業利益92百万円

前年同期比23.1%減

コンクリート構造物の点検・調査、補 修工事事業の売上は、橋梁、トンネル等 コンクリート構造物の点検・調査業務の 請負、補修丁事・補強設計業務の請負に よるものであります。

当連結会計年度においては、コンクリー



ト構造物の点検・調査、補修工事事業の売上高は、9億27百万円(前 年同期10億16百万円)、セグメント利益(営業利益)は92百万円(前 年同期比23.1%減)となりました。

情報機器の販売及び保守事業



売上高 2億11百万円 前年同期4億60百万円

営業利益 43百万円 前年同期比14.3%增

情報機器の販売及び保守事業の売上は、主に金融機関向け 業務処理支援機器及びその周辺機器の販売並びにそれらの保 守事業によるものであります。

当連結会計年度においては、情報機器の販売及び保守事業 の売上高は2億11百万円(前年同期4億60百万円)、セグメ ント利益(営業利益)は43百万円(前年同期比14.3%増) となりました。

橋梁、高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置工事事業



売上高 29億20百万円 前年同期23億77百万円

営業利益 1億98百万円 前年同期比105.0%増

橋梁、高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置丁事事業の 売上は、主に橋梁、高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置 丁事によるものであります。

当連結会計年度においては、橋梁、高架道路用伸縮装置の 製造・販売・設置工事事業の売上高は、計画以上の大口受注 が獲得できたことや丁事進行基準の導入などにより29億20百 万円(前年同期23億77百万円)となりました。セグメント

利益 (営業利益) は、工事進行 基準の導入に加え、前連結会計 年度でのれん代の一部である顧 客関連資産の償却が終了したこ とにより1億98百万円(前年同 期比105.0%増)となりました。



タテ型歯型片側綱床版用構造伸縮装置

不動産事業



売上高 2億74百万円 前年同期74百万円

営業利益 1 億55百万円 前年同期比458.7%增

不動産事業の売上は、主に不動産の賃貸によるものであり ます。

当連結会計年度においては、持株会社化に伴い子会社に対 する不動産賃貸が増加したことにより、不動産事業の売上高 は2億74百万円(前年同期74百万円)、セグメント利益(営 業利益)は1億55百万円(前年同期比458.7%増)となりま した。

会 社 情 報 (2022年6月29日現在)

会社	土 概	要	
商		号	ヤマウホールディングス株式会社 ※2021年4月1日持株会社化に伴い、「株式会社ヤマウ」 より商号変更
本		社	福岡市中央区舞鶴3丁目2番1号
設		立	1958年(昭和33年)2月
資	本	金	8億円
代	表	者	代表取締役社長 有田 徹也
従業	員 (道	重結)	811名 (2022年3月31日現在)

会 社 役 員				
代表取締役社長	有		徹	也
取締役会長	梢	産 藤	勇	夫
取 締 役	信	产 佐	寿	起
取締役(社外)	木	寸 田	曄	昭
監査等委員である 取 締 役(常 勤)	ĩ	章 中	聡	生
監査等委員である 取 締 役(社 外)	椱	嬰 井	文	夫
監査等委員である 取 締 役(社 外)	オ	木	正	之

グループカンパニー	
(株) ヤ マ ウ	コンクリート製品製造・販売事業
開成工業㈱	水門・堰の製造及び施工並びに保守事業
大 栄 開 発 ㈱	地質調査・コンサルタント業務及び土木工事事業
中 外 道 路 ㈱	橋梁、高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置工事事業
メ ッ ク (株)	コンクリート構造物の点検・調査、補修工事事業
㈱ リ ペ ア エ ン ジ	コンクリート構造物の点検・調査、補修工事事業
光洋システム機器㈱	情報機器の販売及び保守事業
㈱ヤマウトラスト	コンクリート製品製造・販売事業
大 分 フ ジ ㈱	コンクリート製品製造・販売事業
(株) 熊 本 ヤ マ ウ	コンクリート製品製造・販売事業

グループカンパニー

